

防災利用マップの手引き

防災マップや危険箇所の情報は、国、愛知県の資料やインターネットで数多くありますが、大口町では、国、愛知県の資料をもとに、風水害を想定した洪水マップと大地震を想定したの震度マップの2種類の防災マップを作成しました。

これは、本町で予測される近年のゲリラ豪雨などの大雨への対策、近い時期に発生するとされている大地震への対策を進めていただくためです。

災害は、「いつ起こるか分からない」と言われております。皆さんが知識や情報を持ち、それぞれが事前対策することが防災・減災では重要と言われています。

防災マップの情報は一部ではありますが、ご家族や地域の人たちと話し合いをしながら、危険箇所などの情報を新たに加えながら、オリジナルな防災マップを作成するなど、防災の教材として活用していただきたいと考えております。

目次

洪水 ●●

- 大口町過去の洪水記録 2
- 洪水時の避難 2
- 気象庁から提供される情報 3
- 災害時の避難ポイント 4
- 洪水防災マップについて 4
- 洪水ハザードマップ 5・6
(全域図)
- 洪水ハザードマップ 7・8
(大口南小学校区)
- 洪水ハザードマップ 9・10
(大口北小学校区)
- 洪水ハザードマップ 11・12
(大口西小学校区)

地震 ●●

- 近年の主な地震 13
- 震度と予想される現象 13
- 緊急地震速報について 14
- 緊急地震速報を聞いたら 14
- 家具の転倒や置物の落下に注意しましょう！ 15
- 地震による建物被害 15
- 想定される大規模地震 16
- 地震防災マップについて 16
- 地域震度マップ (全域図) 17・18
- 日頃からの備え 19
- いざという時は 19
- 防災行政用無線サイレンパターン 20
- 防災行政用無線 20

共通 ●●

- 自主防災組織 21
~自分たちの地域は自分たちで守る~
- 災害時には、正しい情報を！ 21
- わが家の防災メモ 22
- 災害時の避難場所 23
- 自宅まわりの避難ルートのチェック 23
- 防災手帳 24・25
- 備蓄食料品チェックリスト 26
- 非常時持出品チェックリスト 27

大口町過去の洪水記録

あらためて過去の洪水を振り返り、また情報の伝達経路を知っておいて、今後災害に遭遇した時、避難するための判断基準として下さい。

明治以降の洪水記録の内、特に被害の大きい被害記録を以下に示しました。

年・月	原因	事項・状況
明治元年5月	長雨・大雨・洪水	入鹿池堤防決壊：被害甚大。特に河北、外坪では死者100人近く、家屋ほとんど流出。小口地内寺田地域では死傷者多数。秋田地区では家屋の浸水（床下60cm）、農地の土砂による埋没被害大。その他の地域でも家屋・農作物の被害大。
大正元年5月	暴風雨・洪水	台風による暴風雨：被害甚大。特に住宅や稲作・桑畑被害大
昭和9年9月	暴風雨・室戸台風（台風第28号）	家畜・人畜・農作物の被害甚大。
昭和34年9月	暴風雨・洪水・伊勢湾台風（台風第15号）	被害甚大（大口町）：死者3名、負傷者38名、家屋全壊77戸、半壊135戸、農産物・畜産物の被害大。その他、中学校の校舎1棟全壊。
昭和42年7月	大雨・洪水	河川氾濫、家屋、田畑の浸水：家屋43棟浸水、田畑240ha余り冠水。
平成12年9月	大雨・洪水（東海豪雨）	堤防越水、家屋・道路・田畑の浸水等、家屋：床上4棟、床下21棟、道路冠水19箇所、道路通行止め7箇所、水田10ha、イチジク畑43ha、橋の崩落1箇所、橋台損傷1箇所、護岸崩壊1箇所。

洪水時の避難

水害の恐れがある場合、テレビ・ラジオや防災行政用無線、インターネットなどから避難の呼びかけをしますので、速やかに避難してください。

避難指示の種類	発令の基準と目安	とるべき行動
避難準備 (自主的避難)	河川の水位が危険水位に達する可能性が高くなった時点です。危険水位に達すると予想される時刻の4～6時間前を目安に発令します。	お年寄りや子供、病気の人は、避難を開始しましょう。近所にこのような方がいたら、避難に協力しましょう。 一般の方は、いつでも避難できるように、避難の準備をして、テレビやラジオの放送、役場からの防災広報に注意しましょう。
避難勧告	河川の水位が危険水位に達することが確実になった時点です。危険水位に達すると予想される時刻2～3時間前を目安に発令します。	お互いに助け合って指定された避難所に速やかに避難しましょう。 自動車による避難はできるだけやめましょう。
避難指示 (避難命令)	溢水(いっすい)、破堤(はてい)により甚大な被害が発生する危険性が高まったときに発令します。	指定された避難所に、直ちに避難しましょう。